
賞味期限はもう過ぎた

千嶋桂華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

賞味期限はもう過ぎた

【Nコード】

N2185T

【作者名】

千嶋桂華

【あらすじ】

世にも珍しい消費期限のある操られ人形。18年とちょっとしか使えない使えない道具。 しかしお客様、よくよくご覧くださいませ。こやつ、既に賞味期限は切れております

操られて17年
利用されて17年
賞味期限が過ぎて、約1年。
そろそろ、消費期限すら過ぎる。

顔も駄目。体型も最悪。運動は不可能。
勉強だけ、勉強だけ。
ほんのちよつとの頭の良さ。記憶力の良さ。
平均から外れた微少な誤差だけが
使えない私の、唯一の価値。

それなのにどうしたことだろう。
ここは私と同じような人間ばかり居る。
私より大きな誤差。多方面に広がる誤差。
ここでの私は、ただの平均。
全てが劣り、勉強だけ平均な女。

誰がこんな屑を好むのだろうか。

いいえ、誰も好まない。
賢いものたちは、私を捨てる。
私を見るのは、貧乏人。
私以外の道具を持たない、貧乏人。

「いい高校に入ってくれた」

「うちの孫はすごい高校に行ってるんだぞ」

「貴女は私の誇りよ」

「次は大学ね」

嗚呼愚か者ども

賞味期限はもう過ぎた

私はここではただの屑

近くにいる食通には、私は通用しない。

消費期限まであと2年

高校卒業まであと2年

腐り果てるまでたったの2年

あの貧乏人どもですら気づく

この異臭。

どうせ捨てられるのならば

せいぜいそれまでの間、生き延びて見せよう

あの馬鹿どもの腹を下してやろう

私を他人に自慢し

私を誇りに思うなどのたまい

私を持ち上げている

あの馬鹿どもは

2年後、自らの失態を隠すのに必死になるだろう。

あと2年、あと2年

私はまだ死なない。

私は私を愛さないあいつらに復讐するまで
死なない。

その後は

私は自由になろうと思う。

（後書き）

次は出来るなら、消費期限の無い
使いやすい道具となってみたい
それならば、私はいつまでも使ってもらえる

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2185t/>

賞味期限はもう過ぎた

2011年10月8日12時24分発行